

未来都市創造に関する特別委員会
市民報告会会議録

平成27年5月11日開催

未来都市創造に関する特別委員会 市民報告会

○司会（平木理事）

皆様、こんばんは。本日は神戸市会、未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会にこのように多くの皆様に御参加いただきましてありがとうございます。

私は本日の司会進行を務めます、未来都市創造に関する特別委員会理事の平木博美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、注意事項がございます。本日の会議中は報道機関や事務局を除く写真撮影、ビデオ撮りはできませんので御注意ください。携帯電話は電源をお切りになるか、マナーモードをお願いいたします。館内での飲食及び喫煙は禁止でございます。また、皆様のお席の前でございます名前が入った黒い名前立てには手を触れないようお願いいたします。

本日は議場での開催ということで、まず皆様方に座席を含めて参加者の紹介をさせていただきます。今回、申し込みの先着71名の方には議員席にお座りいただきました。そして、皆様から向かって左側。こちらは通常、市長、副市長等の座席となっておりますが、本日は最前列に未来都市創造に関する特別委員会の正副委員長、理事を初め、15名の委員が2列目にかけて着席いたしております。2列目の途中から3列目は、委員以外に出席しております議員の席とさせていただきます。皆様から向かって右側。こちらは通常、最前列が選挙管理委員会等の行政委員会、2列目以降は事務局の座席となっておりますが、本日は最前列に第2部のパネルディスカッションをお願いしております皆様方、そして2列目以降は特別委員会の委員以外に本日出席しております議員の席とさせていただきます。

それでは、本日の日程を御説明いたします。第1部として、特別委員会からの報告と、報告に対する皆様方との質疑。その後の第2部は、パネルディスカッションとなっております。終了時刻は20時を予定しております。

それでは、まず初めに、神戸市会議長より挨拶申し上げます。安達議長、よろしくお願いいたします。

○安達議長

皆さん、こんばんは。神戸市会議長の安達和彦でございます。本日は午後6時という遅い時間にもかかわらず、この市民報告会に多数御来場いただきましてまことにありが

とうございます。

この未来都市創造に関する特別委員会は、久元市長が提唱する神戸の玄関口であります三宮を初めとする都心の将来ビジョンの策定や、三宮再整備等の重要性に鑑み、議会としても市長とは異なる立場から積極的に調査を行い、しっかりと議会の意思を明確にしていく必要があるということから、私どもが提案し設置されたものであります。吉田謙治委員長のもと、都心の活性化、さらには神戸全体の魅力等について、本日お越しいただいております齊木先生、それから3名のパネリストの皆様を委員会にお招きをし、御意見をお聞きした上で、議員間で討議を重ね18項目の提言を取りまとめ、久元市長に提出したところでございます。本日は、その提言内容の報告を主目的に開催させていただいておりますが、そもそもこういった形で委員会が設置され、そして委員間で討議を行い、提言をまとめ、市長に提出し、さらには市民の皆様にご報告をさせていただくという、これら一連の活動は、神戸市会ではこれまでにない全く初めての取り組みでございます。

神戸市会では、平成23年に神戸市会活性化に向けた改革検討会を立ち上げ、当時の安井座長のもとで神戸市会の活性化に向けてのさまざまな議論を行い、平成24年7月に議会基本条例を制定いたしました。条例では議会の基本的な事項を定めておりますが、中でも議会の役割として、従来からの行政に対するチェック機能だけではなく、市会としての独自の政策提案、提言を行っていくことを重視しており、その実現に向けてさまざまな取り組みを行ってきたものでございます。その成果の1つが、神戸市における災害時の要援護者への支援に関する条例、神戸市がん対策推進条例、神戸灘の酒による乾杯を推進する条例、神戸市みんなの手話言語条例という4つの議員提案による政策条例の制定であり、また、本日のこの市民報告会の開催でございます。

本日は、特別委員会の委員以外にも多くの議員が参加いたしております。今後とも我々神戸市会議員は、互いに切磋琢磨しながら力を合わせて神戸市政の発展、市民福祉の向上に邁進していくことをお誓い申し上げ、議会を代表いたしましての御挨拶にかえさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

○司会（平木理事）

安達議長、ありがとうございました。

それでは、早速第1部に入らせていただきます。

初めに委員会の設置、協議、実地調査の経過等について、未来都市創造に関する特別委員会のかわなみ副委員長から報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

○かわなみ副委員長

未来都市創造に関する特別委員会の活動状況について、御報告を申し上げます。私は本委員会の副委員長を仰せつかりました、かわなみ忠一と申します。どうぞよろしく願いいたします。

先ほど、議員の席と当局の席が今入れかわって、私たち当局側の席に座っておったわけですが、皆さんのお席の座り心地はいかがでしょう。仕事がやりやすい感じでしょうか。また、インターネット等で御報告いただければと思います。

さて、早速私のほうから本委員会の概要に関しまして、御報告をさせていただきます。

まず、本委員会の成り立ちを御説明いたします。一昨年、久元喜造市長が誕生し、三宮周辺の再整備を含む都心の活性化の方針を打ち出されました。これに対して、議会の立場からこれらに政策提言を行うことを目指し、昨年5月12日に本委員会が新たに設置されました。その目的は、三宮周辺・ウォーターフロント地区における都心の再生や市街地西部地域などの活性化の原動力となる神戸市独自の魅力をいかに創出するか、また、その基盤となる潤いある都市空間の整備や新たな交通手段（L R T等）を含む総合交通体系の整備など、多文化共生を前提とした新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について調査をすることが目的です。

その中で、神戸の魅力は何か、また今後どういう魅力をつくっていったらいいのかという点に関して、「神戸の魅力」「都心の魅力」「若者の集うまち」そして「産業振興」、4つのテーマを設定し、参考人を招致し、意見聴取及び意見交換、そして参考人の意見等を踏まえた委員間の討議を行ってまいりました。また、都心の将来ビジョンや三宮地区再整備に関する取組状況について神戸市当局からの報告を聴取するとともに、都心の再整備に関して公共交通や都市設計の民間企業、他都市における先進事例の調査を行うなど、精力的に活動してまいりました。

それでは、参考人招致及び委員間討議の概要について御報告いたします。テーマに対して参考人を招致し、テーマに沿った形で参考人意見を聴取した後に委員からの質問討議を行ってまいりました。本日は、第2部のパネルディスカッションにて4名の参考人の皆様そろい踏みですので、またその内容もお楽しみいただければと思います。

まず、調査テーマの1つ目「神戸の魅力」については、神戸市の統括監を務められました、神戸芸術工科大学学長の齊木崇人氏を参考人に迎え、神戸の地勢や、そしてそこに住む人々の住まいやコミュニティなどについて、参考人が手がけたプロジェクトも引き合い

にしながら、これからの神戸のまちづくりに関して意見聴取を行いました。委員会では、海洋空間の利活用や公共交通、商店街・空き家対策、産業・観光の振興などについて意見交換、討議がなされました。

次に、「都心の魅力」については、主に映画の撮影を誘致することにより神戸を紹介されてきた、神戸フィルムオフィス代表の田中まこ氏を参考人にお迎えし、参考人の経験をもとに、「住みたい」「訪れたい」「働きたい」といったジャンル別の都市ランキング状況を解説していただき、三宮、元町、ウォーターフロントなどのエリア別の魅力と問題などについて意見聴取を行いました。

委員会では、都心のまちなみや集客、おもてなしなどについて意見交換、討議がなされました。

次に、「若者の集うまち」については、神戸電子専門学校校長の福岡壯治氏を参考人にお迎えし、コンピューター系専門学校の校長であり、音楽活動を行っている参考人の経験をもとに、音楽や映像も交え、若者をまちに誘う要素、まちにおける音の価値などについて意見聴取を行いました。

委員会では、ICTと神戸医療産業都市や市場・商店街との関係、東遊園地の活性化、音楽のあるまちづくりなどについて意見交換、討議がなされました。

最後に、「産業振興」については、フランス在住40年を超え、現地でのファッション業界で長いビジネス経験を有する齋藤統氏を参考人にお迎えし、フランスの地方から世界へ発信している事例を参考としながら、神戸がどう国内外に向けて発信していくかなどについて意見聴取を行いました。

委員会では、神戸のファッション都市のあり方を初め、産業やビジネスへのブランド展開、日本文化・伝統文化の海外における見方などについて意見交換、討議がなされました。

また、委員会では、班単位での実地調査も行いました。交通事業者、昨年7月18日にJR西日本から、また7月23日に阪急電鉄から三宮の駅ビルの建てかえ計画等についての説明を聴取し、意見交換を行いました。また、昨年9月8日から9日と、多くの都市再生プロジェクトの実績を有する日本設計から三宮周辺の再整備についての意見交換を行ったのにあわせて、渋谷区を調査し、渋谷駅中心地区再開発についての説明聴取と実地視察を行いました。

これらの調査活動を踏まえ、本日お手元にお配りしております「神戸の未来都市創造に向けた提言書」のとおり、都心に関する提言を11提言——例示いたしますと、提言の1つ

に3層歩行者ネットワークについて、提言④神戸のシンボルについて、提言⑤三宮東地区へのアクセスについて、提言⑥市営地下鉄と阪急の相互乗入れについて、提言⑨繁華街・歓楽街について。また、広く神戸の未来に関する提言7提言として、提言⑩神戸らしい景観について、提言⑬山と海との共生、提言⑰神戸のまちの発信について、提言⑱新たな交通手段の導入についてなど、合計18項目の提言にまとめ、3月24日市長に対し、この提言書を手渡しいたしました。これから神戸市当局がこの提言を受けて、再整備をどのように具現化していくのか注視していきたいと存じます。今回の提言内容の報告に関しましては、後に吉田委員長より御報告があるかと思えます。また、それぞれの委員の皆様からも今回のテーマに沿った御発言があるかと存じます。

私から一言、今回の活動に関しましての思いを述べたいと思えます。今回、副委員長として吉田委員長をサポートする形で携わってまいりました。委員会では、神戸の魅力を生かすために、神戸にゆかりのある参考人からお伺いする形でした。角度を変えた第三者の意見を聴取することで、昨年、現在再整備の真っ最中であります渋谷区へ実地調査を行いました。また、都市設計コンサルの視点、他都市の行政、交通事業者の視点に関して調査をいたしました。渋谷区の再整備の事例、つまりJR駅周辺整備構想と私鉄駅の整備、高速バスステーションと商業業務施設との構築、都市計画コンサル大手の意見をお伺いできたことは都心規模こそ違えど、今回の都心に関する提言の中にもエッセンスが生かされていると思えます。

私から神戸市に対するお願いは、今回の計画は柔軟に対応しながら計画を更新してほしい——言葉を変えれば、連鎖的、有機的にまちづくり、再整備を行ってほしい。人口減社会と超高齢社会では、できるだけ幅広い方々がまち歩きを楽しんでいただくことが肝要でございます。バリアフリーや行き先表示だけではない、また、駅ビルだけが繁盛するのではない。行政としては周辺の商店街、繁華街が活性するための一助となる再整備であってほしいと切に思えます。

これだけの議員に神戸のまちづくりを語らせれば百家争鳴です。その中で、議会の委員会としてこの提言書をまとめ作成できたことは、本当にうれしく思います。改めまして、委員長、理事、委員、議員各位と議会事務局、市民の皆さん、そして参考人の皆さん、調査させていただいた企業、行政機関に感謝を申し上げます。まちづくりに終わりはありません。まちは生き物です。立ちどまることなく行政、議会、市民の一人一人、皆でよりよい神戸のまちづくりを進めていけることを心よりお祈りいたしまして、私からの委員会の活動概要報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

○司会（平木理事）

かわなみ副委員長ありがとうございました。

それでは続きまして、未来都市創造に関する特別委員会の各委員から一言ずつ発言をさせていただきたいと存じます。各委員とも1年間精力的に活動してまいりましたが、その集大成として、最後に一言ずつ神戸に関する思いを述べさせていただきたく思います。各委員、1分半という非常に短い持ち時間ではございますが、皆様に意見を申し上げます。それでは、まず、沖久理事からよろしくお願いいたします。

○沖久理事

御紹介いただきました公明党の中央区の沖久でございます。

私のほうからは市営地下鉄西神山手線と阪急神戸線の相互乗り入れについて発言させていただきたいと思っております。実は平成16年に国からも乗り継ぎ利便性の向上に資する事業の一つとして上がり、この構想が検討されたようではございますけれども、その際は三宮が通過点になり、かえって空洞化になるのではとの神戸市の懸念や、その後の経済状況の悪化に伴い、神戸市側が消極的だったため事業化まで至らなかったと聞いております。しかし、特に全国的にも非常に難しいと言われております長年の懸案でもある阪急春日野道駅のバリアフリー化の解消策も視野に入れながら、今回の再整備の構想を契機にメリット、デメリットを整理して、都市部のみならず西神地域を初め、全市的、大局的な観点で調査、検討するとともに、関係者と連携を密にしながら協議を進めてもらいたいと思っております。なお、長期的な構想となるため、駅舎のバリアフリー化については、この機会に花隈駅なども含めて、それ自体検討するよう強く要望させていただきたいと思っております。

以上です。

○司会（平木理事）

それでは、次に、森本理事よろしくお願いいたします。

○森本理事

御紹介いただきました、日本共産党の長田区選出の森本真でございます。

私はJRと阪急三宮駅の高層ビルへの建てかえ計画の発表に端を発し、市長や神戸市が駅前を含めた再整備の方針づくりを始めました。当議会でも委員会を立ち上げて議論を重ねてまいりました。

私の視点としては、市民の立場に立って三宮駅周辺のまとまりのあるバリアフリー化、

またユニバーサルデザイン化による高齢者も障害者にとっても使いやすい駅、ターミナルにすること。また、外国人旅行者がふえておりますが、外国人旅行者にとってもわかりやすいサインなどが必要だと感じます。しかし、神戸市の計画案、最近発表されましたが、似て非なるものであるということと、周辺も含めたスクラップ・アンド・ビルドの大型開発だと感じています。また、委員会では三宮駅周辺地区の再整備だけでなく、兵庫区、長田区など市街地西部の活性化についても検討課題とされています。今後、委員会として市民の声を集めながら、市街地西部の活性化についても論議を深めていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、次に、岩田委員お願いいたします。

○岩田委員

ただいま御紹介いただきました、民主こうべ政策議員団の岩田嘉晃でございます。

私のほうからは回遊性の向上と、そして公共交通の整備についてということで述べさせていただきます。

市民の皆さんや観光客にとりまして魅力のある神戸の都心にするためには、やはり食であったり観光資源を発信することでありまして、わかりやすい都心があるがための、やはり回遊性も必要でございます。神戸には山と海が近く、外国の観光船の船長は美しいまちだという感想も述べられているようでございます。せっかくこのすばらしい景観を持つ神戸は上辺だけではなく、国内そして海外を問わず神戸に来てよかった、そしてまた訪れたいまち、市民の皆様が誇りに思う都心の形成をつくる必要があると考えています。

同時に新幹線、新神戸ですが、地下鉄また私鉄をつなぐことも重要な課題であり、LRTまたBRTなどの回遊手段も検討しなければなりません。神戸市と人口が少し似ておりますが、178万人のハンブルク市の考え方でございますが、歩きたくなるまち、そして歩きやすいまち、また、歩いて楽しいまちをつくることありまして、中心市街地の自動車の乗り入れ規制や、そして公共交通の整備等に伴いまして歩行者優先の市街地をつくって成功しております。ぜひとも、阪神大震災から20年を経過したこの神戸、新しいまちをつくっていくべきではないかなという思いから、いろいろ勉強させていただきました。

以上でございます。

○司会（平木理事）

ありがとうございます。

それでは、次に、浜崎委員お願いいたします。

○浜崎委員

長田区の自民党の浜崎為司でございます。

これからの人口減少社会の中で三宮駅周辺については、神戸の顔として、神戸が都市間競争に勝てるような魅力あるものにすべきであります。市民が未来の神戸に夢を持てるよう、全力で取り組むべきであると思います。そのために残された時間は余りありません。

提言書の中でも、三宮駅周辺に関する政策としてバスやタクシー乗り場の再整備、再配置、市営地下鉄と阪急の相互乗り入れなどを提案させていただいております。これらは行政当局のみでできるものではありません。JR西日本や阪急電鉄にも行政として働きかけを強め、できる限り早く再開発のパッケージを構築すべきであります。

当委員会の中でも両社に赴き、意見交換を重ねました。交通事業者間で開発時期や内容などのすり合わせが行われておりませんでした。可能な限り交通事業者間で話し合いをし、連携をとり、コンセプトを共有する必要があります。また、関係者間で終わることではなく、市が中心となって調査を行い関係者の個性や意向を尊重しつつ、三宮周辺地区を初めとする市全体の魅力の向上に向け認識の共有と機運を盛り上げていくべきであります。そのために、議会としても引き続き当局と連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、次に、味口委員お願いいたします。

○味口委員

御紹介いただきました、日本共産党の味口としゆきです。

当委員会では約1年間、都心及び三宮の再整備について議論をしてきました。しかし、三宮を中心とした都心の再開発の必要性については、市民の合意が得られたものではないことをまず前提にすべきだと考えます。特にミント神戸建設以降、三宮駅東側の商店の方々からは、ビルが建って人の流れが変わってしまった、この上に、駅ビルなどを中心に再開発が進められると、商売がどうなるのかという不安と懸念の声が寄せられています。

まず、三宮で商売をしている中小業者や商店、また、居住者から意見を聴取し、悉皆調査をすることが求められます。また、他の区で商売をされている方からも、今でも商売が

大変なのに、三宮集中になるとどうなるのかと懸念の声が出されています。三宮一極集中により影響が出ると考えられる市内中小業者や商店の声を聞き、調査することもあわせて求められます。

市長は会見で、都心再開発の事業規模は何百億円ということはない、数千億円のオーダーになると語っています。この数千億円が全て税金というわけではもちろんありませんが、自治体の負担も軽いものではないことが想定されます。これだけのビッグプロジェクトですから、全ての市民からアンケートなどで再開発の是非について声を聞くべきだと考えます。

以上です。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、次に、あわはら委員お願いいたします。

○あわはら委員

新社会党のあわはら富夫です。

私は都心の再整備について、2点の意見を申し上げたいと思います。1つは、神戸のこの三宮のよさである海と山を生かすということであります。三宮の魅力は、都心の中心でありながら海と山が隣接して、自然の眺望を楽しめるところにあると思います。その海と山を生かしたまちづくりを都心の魅力として高めていくことが一番重要です。ところが最近、都心回帰と言われる状況の中で人口が非常にふえていますけれども、40階、50階建てのタワーマンションが林立する事態になっています。こういう今のまちの状況を見ますと、将来の三宮の魅力、都心の魅力を考えた場合には、こういうタワーマンションもきちっと規制をしたまちづくりを考えていく必要があるのではないか、これが1点です。

2点目は、昼のまちと夜のまちの融合です。三宮センター街中心の繁華街と、東門街と言われる歓楽街、これが鉄道によって完全に分断をされています。このまちをどうやって融合していくのか。例えば、札幌のすすきのだとか、福岡の中洲だとか、昼と夜のまちが一体感を持っています。そのためには、例えば生田新道を歩行者天国にするなど、そういう改善なども考えていく必要があるのではないのかな、そういうことを本気になって取り組んでいきたいと思います。

以上。

○司会（平木理事）

ありがとうございます。

それでは、平野委員お願いいたします。

○平野委員

兵庫区の自民党の平野昌司でございます。

まず、神戸の魅力づくりというのはハード面のインフラ整備だけでなく、例えば市民生活の質を高めたり、神戸を訪れる方々に楽しんでいただけるための、そういったソフト面が非常に大事だろうと思っております。神戸のポートアイランドには、世界の1、2を争うスーパーコンピューターがございます。同時に、医療産業都市構想ということで、非常に研究の進んだ地域がございます。一方、まちの真ん中では、完全にそれに匹敵するだけのIT化が必要ではないかな、そういう思いをしております。

今、先端を行っていますシンガポールなんかは、無料Wi-Fiが非常に盛んに行われております。神戸のまちにも無料Wi-Fiを設置したいと。東京のオリンピックでは、この間、政府が発表しましたが無料Wi-Fiで3万カ所、整備費に311億円ということで、これにより非常に外国の来訪者が多い。同時に、非常に経済効果が高いということになっております。日本の世界ITランキングは、この資料によりますとフィンランド、シンガポールに1位、2位に次いで、日本の場合は21位ということですから、まだまだ韓国にも劣っているということですので、この辺を充実していきたいと思っております。

ありがとうございます。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、梅田委員お願いいたします。

○梅田委員

西区から出ています自民党の梅田幸広です。

神戸の魅力として三宮の再開発が必要ではありますが、実際JRと阪急、新聞等で一部出ておりましたが、どのような計画があるか、はっきりとしたことはまだわかっておりません。三宮は、やっぱり神戸市が中心となって取りまとめ、あわせて隣の兵庫、新長田、灘区の底上げも図っていかなければ。三宮だけ開発すればいいというのではなしに、神戸市全体を考えて、いかに神戸に人が寄りついてくれるか。ハード面だけつくっても、俗に言うシャッター通りになったら何の意味もありませんので、いかにして人を呼び込むかを考えていかなければなりません。そして、あわせて調整区域、北区、西区においても、こ

としには北区に道の駅ができて人が寄りつきそうでございますけど、やっぱり調整区域の活性化もしっかり図っていかないと、三宮周辺だけを一生懸命開発した、大きなビルを建てたというハード面だけをつくっても、ソフト面がなければなかなか神戸に人が住んでくれない。神戸に若い人が住み着いてくれるような施策を考えるべきだと思っております。

以上です。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、続いて、上原委員お願いいたします。

○上原委員

皆さんこんばんは、北区選出の上原みなみです。

神戸市は新たな交通手段として、次世代型路面電車を用いたLRTや、連結バスを用いたBRTの導入を検討しており、選出された事業者5社に、それぞれ上限200万円の補助金を出して、現在、事業計画のアイデアを提出させた段階にあります。しかし、募集概要には神戸市全域を対象としてと書かれてありますので、どの地域の輸送を対象にしているのかで論点が変わってきますし、また、専用レーンを設けるのか、その可能性があるのはどのルートなのかというグランドビジョンを示す前に事業者に提案させることの有効性については、疑問を持っております。また、LRTやBRTは、現在、存在する道路が軌道面となりますから、マイカー規制が前提となります。そこに既に珍しくもないLRTやBRTを今さら導入することが、進取の気性を掲げる久元市政らしいのか。また、1971年にマイカーの増加によって廃止された路面電車との政策の整合性をどう説明するのかという問題があります。

そこで、都心への導入で注目を集めるロープウェイやゴンドラ等、本当に観光資源となるような交通手段も導入すべきだとの考えから、提言書にはLRTやBRTなどの新たな交通手段と書かせていただきました。

ありがとうございます。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、川原田委員お願いいたします。

○川原田委員

民主こうべの垂水区選出の川原田弘子でございます。

海の有効活用について発言いたします。この委員会の第1回目の講師として、本日もお越しの齊木先生から海に関しての提言等がありました。私たち神戸市民も神戸の山と海の魅力は十分知っているつもりですが、まだまだ眠っている可能性に気づかされました。神戸の海は、美しい瀬戸内の海の始まりに位置しております。瀬戸内海に浮かぶ美しい島々、沿岸のまちの日本の文化など、さまざまな楽しみ方のできる瀬戸内クルーズの拠点としても、神戸のまち並み、六甲の山並み、世界一の橋、風光明媚な海から眺める神戸の魅力をもっと生かした提案ができるのではないかと思います。また、13日には神戸港に、大型客船ボイジャーオブザシーズが入港いたします。今後も客船誘致に力を注ぐことで、乗船客が市内観光によって経済効果を与えることはもとよりですが、神戸港に行けば大きな客船に出会えるという港神戸としての格段の観光資源にもなっていくのではないかと思います。さらに海を生命の源でもある里海として、今後みんなで、地域で保全に取り組む活動が、さらなる新しい神戸につながると思います。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、次に、堂下委員よろしく願いいたします。

○堂下委員

皆さん、こんばんは。北区選出の堂下豊史でございます。

きょうは、このようにたくさんの方にお越しいただき、まずもって感謝を申し上げます。大変ありがとうございます。

さて、日本社会が人口減少を迎える中で、自治体は地域社会をどう維持、発展させていくかという新しい課題に立ち向かっていく必要がございます。3年連続で人口減少が続く神戸市においても、国の施策をただ待っているだけではなく、主体的に知恵を出し取り組みを進めることが求められています。本委員会では、神戸の未来都市創造に向けた議論を行ってきましたが、きょうは創造という観点から所感を述べたいと思います。

地域社会の維持、発展に向けて安倍総理は地方創生というメッセージを強く打ち出しており、2015年は地方創生元年とも言われています。地方創生を考えると、施策の全てが目指すのは人の幸せであるということを私は訴えています。同時に、幅広い住民の要望や悩みを聞き、地域の隅々まで知り抜いていなければ、人が生きる地方創生、強いては神戸の創生にはならないと強く思います。地方議員や議会が果たすべき役割とは何なのかを一層議論するときが来ています。私たち地方議員の役割の1つは、現場の声を聞き住民とと

もに知恵を絞って地域課題への解決を探ることです。そして、今後は、それを議会に持ち寄り、議員間で解決を探ることが一層求められていると、このように思います。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、石丸委員お願いいたします。

○石丸委員

皆様、こんばんは。ようこそお越しいただきました。垂水区選出、自民党の石丸誠一でございます。

未来の神戸のまちは、どのようになるのだろうか。未来という言葉に希望を感じながら、この未来都市創造に関する特別委員会に臨みました。

委員会の回数を重ねるたびに、具体的な課題が展開してまいります。神戸の政治、経済、文化の中心である、そしてまた、交通の要所である三宮。この三宮周辺、そしてまた、ウォーターフロント地区における都心の再生、そして市街地の活性化の原動力となる神戸独自の魅力の創造など、全ての課題が神戸のまちの発展につながるものでございました。

私たちが未来のまちを想像するとき、過去に目を向けることも1つの考えだと思います。例えば、神戸というまちの20年後の未来の姿を想像するとき、その20年前もしくは30年前を振り返ってみると、神戸が発展しているまちだと描いているに違いありません。しかしながら、現実的には阪神・淡路大震災、傷ついた神戸のまち、そして疲弊した企業の姿があります。震災後20年、まちは再生していても、神戸はいまだ復興途上にあります。発展から復興へ、市民の視線が変わってまいりました。時代の変遷を感じざるを得ません。災害がどのようなものであっても、決して失ってはならないものがあると考えられます。それは、まちは市民の生活を意識してつくられなければならないという考え方でございます。未来の神戸市民が振り返って私たちの時代を見るときに、この提言がお役に立っていることを望んでおります。

ありがとうございました。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは最後に、私からも一言意見を述べさせていただきます。

神戸市当局は三宮駅を中心とした都心のあるべき姿について市民の方々の意見を聞く委員会や検討会、ワークショップなどを開催する計画でした。市民の代表である議会として

も、意見を提言したいという強い意向で設立した委員会でございます。神戸市の魅力は何か、未来がどうあるべきかについて、さまざまな見識を持たれている参考人の方々から午前中に提言を伺った上で、午後は議員間討議を進めるという神戸市会でも初の試みで審議が進められました。これまでの委員会は、専ら議員が当局に対する質問をする方法で進められるので、新しい試みは議員にとっても難しいものでした。しかし、回を重ねるごとに議員同士での意見が交換されるようになり、今後の議会での新しい審議のあり方として議員も研さんを積み、資質を高め、意義のある討議ができる委員会運営を目指さなければならぬと痛感したところです。委員会の議題としては、神戸市の抱えている課題のほんの一部しか取り上げることができませんでしたので、今後もこの委員会を継続し、課題を地域ごと、テーマごとに拾い上げ、順に検討して、神戸の未来像を提案していきたいと思っております。

今の私たち委員会からの委員1人ずつの意見は、これで全員終わりました。この各委員の思いも踏まえ当委員会の活動の成果として取りまとめ、久元神戸市長に提出いたしました神戸の未来都市創造に向けた提言書について、当委員会の吉田委員長より説明いたします。

よろしく願いいたします。

○吉田委員長

当委員会の委員長を仰せつかっております、公明党の吉田謙治と申します。

いろんな委員の方々がいるいろいろ御発言をされて、ここで整理も含めて全体の委員会の提言の報告を申し上げたいと思います。皆様のお手元にも「神戸の未来都市創造に向けた提言」というペーパーをお配りしているかと思っておりますので、ごらんいただきながら説明を聞いていただければと思います。

まず、今、平木理事からもございましたように、もともとこの委員会がスタートいたしましたのは、一番大きな背景としては人口減少とか都市の活力の減退という課題があって、ちょうど久元市長が就任されるときに、特に神戸の玄関口である三宮の再整備をやろうということの御提案があって、具体的内容はこれからですけれども、それに対して議会としてもいろいろ議論をし、提言すべきではないかということになりました。

ということですので、この提言の内容はそういった意味で、三宮駅周辺の再整備をどうするかということが1つの課題になっております。ただ、当委員会としては、そこにとどまることなく、その周辺の都心部の活性化もどう図ったらいいのか。

そしてもう一つ、大きくは時間的に制約があって十分できませんでしたが、神戸の本当に魅力とか活力というのはどうすれば生まれてくるのかを検討したのが、この政策提言内容の大きな2番目のお話であります。

もとより、都市の魅力とか活力というのは、ここで述べられているような都市計画とか経済政策だけではありません。福祉でありますとか教育制度であったりとか、こういったことも都市の魅力としてあるわけですが、そうなりますと神戸市政全体という話になってしまいますので、今回の提言の内容からは実は医療、福祉、教育といった課題はあえてこの初年度には行っていないということでございます。そういったことを踏まえて、簡単にこの提言内容について申し上げたいと思います。

まず、先ほど委員からもございましたように、未来都市創造に関する特別委員会という名前がついております。未来都市とは何なのかが、本来この委員会の名前からもありますように、そこが実は一番の課題だと私たちは考えておりました。未来の都市としては、どういうことが価値があるのか。どういうことが市民の皆さんにとって、未来都市らしいワクワクする、あるいは非常に期待の持てるまちになるのか。こういうことが一番根本的な課題であったように思います。別の言い方をすれば、神戸市の魅力というものは何なのか。どうすればそれが創造できるのかということでありました。

いろんな表現とかいろんなテーマがありますけれども、我々委員会としては、後ほど申し上げますけれども、わかりやすい言葉で言いますと、市民にとってあるいは神戸市に來訪する方々にとって神戸市が優しいまちであるかどうかとか、あるいは、わかりやすいのかどうかとか、あるいは心地いいのかどうか、こういったことが恐らく神戸に住んでみたいとか、あるいは神戸にやってきたいという方々に対する魅力でありましようから、そういったことを具体的にこのまちの中でどうやって実現していくかになってまいります。

ここから具体の提言内容に移りますけれども、私からは、全部で18提言ありますが、そのうちの5つについて御報告申し上げたいと思います。

第1が、今、出ておりますように、歩行者の3層構造は実は昔からございまして、地上と地下とデッキと呼んでおりますけれども、この歩行者ネットワークをぜひ三宮駅周辺については整備していこうということでもあります。当然のことでもありますけれども、実は3層構造にすればそれでいいということではなくて、なぜ3層構造なのか。先ほどもございましたけれども、鉄道と道路で三宮駅周辺は分断されておりますので、歩行者の皆さんがスムーズに行きたいところに行けるようにすると。当然ながら、3層ありますので縦移動

もスムーズにできると、バリアフリーでないといけない。

もう一つは、どこへ行くのか、どこをどう通っていったらどこへ行けるのかが、実は三宮駅周辺はよくわかりません。したがって、わかりやすさとか、あるいはスムーズに移動ができるのは、どこへ行きたいのか、どういうところへどう行ったらいいのかということの情報提供をする。そのことによって、駅周辺の商店の皆さんあるいはそれぞれが、例えば文化的な活動、教育の活動も三宮駅周辺にはございますので、こういった情報提供もしなければいけないという意味も込めて、3層の歩行者ネットワークを提言しております。

それから、次は神戸のシンボルということを上げております。神戸に着いたんだぞということがわかるような何かを、ぜひ示そうじゃないか。これは見た目の景観ということもあります。ここでは神戸の特徴として海と山が近いから、海と山が一遍に見られるような空間をつくったらどうかとか、あるいは神戸にやったら汽笛が聞こえた、汽笛が聞こえるというのは、港まち神戸のシンボルですから、そういった音も出したらどうかということも議論に出てまいりました。いずれにいたしましても、唯一無二の神戸らしいシンボルをつくるべきではないかという提言であります。

それから3つ目は繁華街・歓楽街、この提言の1の(2)の①でありますけれども、この繁華街・歓楽街いろんな見方がありますけれども、先ほども委員からありましたけれども、ここで優しさとかを考えますと、車なのか人なのかいつも議論になります。先ほど生田新道から車をシャットアウトしようというお話が出ましたけれども、これはやはり車ではなくて人を中心に考えれば、あの生田新道という空間はマルシェをやったりイベントをやったり、そういう意味では非常に日中、夜あそこにぎやかなのは当然でありますけれども、日中もいろんな活動ができる空間として利用できるのではないか。いわゆる業務用車両以外は、あそこを通行する必要は必ずしもないんじゃないかという議論も出ました。そういった意味で、この繁華街・歓楽街について車道空間というものを一定解放すべきではないかということが中心であります。

それから、その次の東遊園地。これ皆さんも不思議に思われるかも知れませんが、東公園とは書いてありません。東遊園地なんです。東があれば西もあるはずなんです、御存じの方も多いと思いますが、昔の外国人居留地の都市計画をやったときに、当初の計画では東と西に公園を、まあ遊園地ですね、つくろうということがあったそうですけれども、東遊園地だけが完成して、まさに遊園地と呼ばれるように、ここでは単なる公園ではなくてクリケットをやったり、当時はまだ川があったようなんですけれども、こういった緑地を使

うということで、実際まさに遊園地として使われていたようであります。

ここの遊園地を、文字どおり市民の皆さんが日常的にいろんなイベント等々で使えるようにどんどん改善をしていこうということで、具体には芝生化をしたらどうかということもございます。ただここのところは、これからいろいろ議論があると思いますけれども、周辺の住民の皆さんに御迷惑かからんようにというのが出てまいりますので、一朝一夕にはいきませんが、こういった都市の魅力の1つとして、貴重な東遊園地の都市空間を都心部にふさわしい使い方、あるいは使い方の提言も考えていくところでもあります。

最後に心地よい音環境。これは後ほど福岡先生からお話があるかと思えます。都市計画の中で、余り音環境ということが議論されてまいりませんでした。騒音対策は公害問題としてあるわけですが、心地よい音環境をあえてつくろうじゃないかということをご提言いたしております。時間がございませんので、詳細は省きたいと思えますけれども。この心地よいまちづくりの中での、景観だけではなくて音の環境も計画的に考えていくべきではないか。先ほど、神戸のシンボルとして神戸へやってきたら、ここで聞く音は神戸のまちだねと言われるようなシンボルをというのも、実はこの音環境の1つであろうかなと思えます。

こういったことで、従来にはないこの発想でまちづくりをしていこうと。特にこの大きな2番目は、結局、何を目指しているかといったら、やはり多種多様ないろんな方々が神戸に集まって、多種多様な人々が集まるからこそ新しい価値を生み出してくれる、こういうことを、実は期待いたしております。そういったいろんな方々が神戸に集っていただいて、住んでいただくのが一番いいですが、いわゆる交流人口と呼ばれるように、神戸にあっていろんな活動をしていただく、していただきやすい、ぜひやってみようという魅力を感じるまちにすると、神戸の新たな価値の創造ができるんじゃないか。こういうことを最後に提言を申し上げて、1年で到底終わるわけではありませぬので、これから2年度目に向けてまたこの特別委員会やっていこうという議論になっておりますので、ぜひ市民の皆様からもいろんな御意見をいただきながら一つ一つ具体の施策としても市長に要望させていただいて、具体の施策として実現を図ってまいりたいということをお願いして、私からの御報告にかえさせていただきます。

どうも、大変ありがとうございました。

○司会（平木理事）

吉田委員長、ありがとうございました。

以上で、未来都市創造に関する特別委員会の活動報告は終了させていただきました。

これより、これまでの報告に関しまして皆様方からの質問をお受けいたします。何か御質問がございましたら挙手いただき、こちらでマイクをお運びいたしますので、お手元にマイクが来てからお名前とお住まいの区をおっしゃっていただいて御質問をお願いいたします。質問のある方、挙手をお願いいたします。

より多くの皆様に質問していただきたいと思いますので、私たち委員も1分半という時間を守りましたので、短く御質問をまとめていただけるとありがたいです。

○質問者

わかりました。議会の皆さんが努力されて、このような提言をまとめられたことに、まず敬意を表したいと思います。それと、単なるチェック体制ではなく政策提言にまで踏み込まれた、その認識の確かさについても遅まきながらですが拍手を送りたいと思います。

ただ、この提言を見させていただくと、以前から何度も提言された内容とほとんど変わりありません。時代の流行色で少し色づけが変わっただけです。皆さんには、過去に同じような提言が、構想が何度も出ながら、なぜ実現しなかったのか、そこをしっかりと考えていただきたいと思います。そして優先順位をつけて、小さなことでもまず実行していただきたい。そして今後実行するには、市民の理解と協働、協力が欠かせません。市民に対して十分説明し同意を得て、意見を聞いて、そして市民とともに実行していくことをしっかりと心に銘記していただきたい。

質問でなく要望になってしまいましたけれども、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○司会（平木理事）

ありがとうございます。せっかく御発言いただきましたので、御出身の区とお名前だけお伺いしてもよろしゅうございますか。

○質問者

垂水区から来ました奥地と申します。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

今のは御意見ということですので、ほかに質問のある方がありましたら。上の席でもこちらの席でもマイクは御用意しておりますので、挙手いただけたらと思います。

○質問者

中川と申します。いろいろ提言させていただいている内容は確かに今言われたように非常に昔から言われていることが結構多い。しかし問題は一つ一つ期限を切っていくかないかん、優先順位のね。だからこういう提言を出すのであれば、いつまでにこれは大体やるよという期限設定をしていかないと。いつも同じ意見が提言として。だからそういう面では期限を切って、いつまでに大体これをやると。17か18ありますね、その中でこれはどのぐらい——未来と言うけれども、年限をある程度決めていかないと実現が難しいんじゃないかということをお願いしたいと思います。

以上です。西区の中川と申します。

○司会（平木理事）

御意見ということでよろしいでしょうか。わかりました。では、一番前でも手が挙がっておりましたので、どうぞ。

○質問者

北区の谷守といいます。今2年目に向けてさらに活動を継続するというところで、市民の声を聞いていくと。御説明の中で、さらに全市民のアンケートをとるようなことを言われておりましたが、具体的に、この委員会でそういった市民の声を聞く窓口のような、具体的には何か設置されるのでしょうか。

○司会（平木理事）

では、委員長のほうからお答えさせていただきたいと思います。

○吉田委員長

私どもの委員会は、この6月で一旦終了になりますので。これは特別委員会ですので、この会期ごとに、選挙は終わりましたので、新たにまた設置することになります。新たな正副委員長以下、理事の皆さん方で今申し上げた方向で、どういう形になるかわかりませんが、御意見を伺う形をとりたいと思っておりますし、既にいろいろメール等々でも市会事務局のほうでいろんな御意見等を承る体制をとっておりますので、そういう形でお申し越しをいただいてもいいんじゃないかなと思っておりますが。委員会が変わりますので、皆さんの御趣旨は当然お伝えしたいと思えます。

○司会（平木理事）

では、そのようにさせていただきますので、よろしゅうございましょうか。

ほかに御質問ございませんでしょうか。上の一番前の方をお願いいたします。

○質問者

都心部の整備は非常に重要なんですが、そのアクセスですね、周辺に住んでる住民が都心で暮らすためには、交通機関の整備が重要だと思います。阪急が西神中央とか乗り入れすべきということだと思ってるんですが、一方、神戸電鉄の栗生線、当初では西神中央と、どこかをつなぐという計画があったけれども人口が減ってるんですね。計画はないんでしょうか。

○司会（平木理事）

委員長、コメントいただいてもいいですか。

○吉田委員長

お答えするにはちょっと荷が重い課題でございまして、栗生線の問題は所管の常任委員会等でもいろいろ議論をいたしておりまして、今お話があった地下鉄と神戸電鉄を結ぶ話はかなり昔、国の運政審なんかで、もう本当に昔の話ですけども、西神中央から神鉄へ持っていくのか、南へ、たしか大久保だったと思いますけど、持っていくのかという議論があった中で、神鉄へ持っていくのがいいんじゃないかという話がありましたけれども、全くそういうことは具現化いたしておりませんし、現時点でそういう議論があるのかと言われると具体の議論は今のところはないということでございます。

○司会（平木理事）

ありがとうございます。

では、一番後ろの方お願いいたします。

○質問者

垂水の高橋といいます。

この計画の出発点は、国鉄と阪急のビルですね、この問題が発端やと思います。この動向がどうなるかによって全体的な計画が決まってくるのではないかと。

これは私の感想ですけども、ビル計画を進めるためのサポートとしての三宮開発ではないかという位置づけをしているんです。ただ、今のお話の中で、駅前のバス停の問題とか、それから3層構造、人が行き来する場合の改善とかについては私個人としても希望します。ただ、もともとの発想がそういうことであるとすれば、そのところの議論が要るのではないかと。これ民間投資の額も含めてだと思ってるんですけども、それだけのお金が投資されて、しかも税金も何ぼか入るんでしょうね。投資されるんで、入れるんでしょうね。そうすると、三宮がよくなることはそれでいいんですけども、神戸市民全体の生活の向上、

市民生活がプラスにどう影響するかは、やっぱり提示されんと、市民全体としては判断しにくいところがあると思います。

今、委員長の報告がありまして、三宮駅のシンボル化、何かつくったらどうか。音とハードの面、両方言われましたけれども、海と山が神戸の特徴だという認識のようだけれども、私、今、垂水に住んでいます。

○司会（平木理事）

恐れ入りますが、質問のほうはおまとめいただけますでしょうか。

○質問者

要は、海と山との魅力を発揮するとしたら、ビルをどんどん建てたら、これは逆効果になりますね。だから、どちらを選択するかということやと思います。海と山の魅力を発しようと思ったら、三宮でなくてもほかの地域にありますからね。だから、総合的に考えて、神戸の魅力を発信するということで検討いただけたらと思います。

えらい済みません、長くなりました。よろしくお願いします。

○司会（平木理事）

今のは、お答えを何か申し上げたほうがよろしいでしょうか。

では、委員長一言。

○吉田委員長

まず海と山というのは、この議論の中で一番特徴的なものとして出てきたということで、決して三宮駅に限っての話ではありませんので。新神戸であったり、それぞれ神戸の中心駅でそういうことを考えたらどうかということで。御指摘のとおり、海と山というのは垂水でも結構ですし、そういうシンボルという発想が余りこれまでなかったもので、例えばのお話で申し上げたということでもあります。確かに、ビルをどんどん建ててしまっ山が見えないということがありますので。都市景観としては、御案内のとおり、山の稜線がきちんと見える形で建築、建物の高さ制限も一方でやっておりますので、我々のほうとしては、そういった問題も踏まえた上でシンボリックなものを何か考えていこうということがメインでありますので、御理解いただけたらと思います。

○司会（平木理事）

では、先ほど手を挙げていただいております2列目の方と、今お手を挙げていただきました方で最後にさせていただきたいと思います。

○質問者

中央区の藤永と申します。

ちょっとばかみたいな質問になるかもしれないですけども、そもそもなぜこの市民報告会を開いているのか、目的がちょっと僕には見えなくて。というのも、何か聞いてて退屈そうにしてる人が非常に多過ぎるというか。まとめていただいている内容を報告していただいていることはすごくすばらしくていいことだと思うんですけど、これやったらビデオに1時間まとめて放送してくれたら話が済むなど、とても思いました。ただの、この質問の場が、何か市民のふだん言えない意見の場、愚痴の場だけになって。多分、市議会議員の方はふだんから考えられてて、いや、そんなんわかってるし的なことが非常に多いのかなと思うので。何のために市民報告会を開いているのか、いま一度仕切り直して、より皆さんに集中力を持って臨んでもらえる場にしていただければと思います。ちょっと偉そうに言って済みません。どなたか御意見いただければ幸いです。

○司会（平木理事）

質問にお答えしたほうが良いということですよ。

では、委員長一言だけ。副委員長からお答えいただけますか、じゃあ。

○かわなみ副委員長

非常に退屈してるというお話でしたけども、やはりオーラルで話すことによってこうやって、直接、批判的な御意見も、そして肯定的な御意見もお伺いできるわけですから、そういう意味では一歩、歩き出したのかなと私は思っています。

ただ、今後どういう形で皆様にこういう議会の内容を発信していくかということに関しては、おっしゃるとおりビデオでまとめてインターネットで流すという手もあるでしょうし、そういったことも、今後、次の委員会の皆様が考えていくことなのかなと私自身は考えます。

以上でございます。

○司会（平木理事）

ありがとうございます。

それでは最後になってしまいますけれども、一番後ろの手を挙げていただきました方にお願ひしたいと思ひます。

○質問者

私は北区から参りました、水谷と申します。

先ほどから御説明をお聞きさせていただいたんですが、まず神戸市のこの未来都市とい

うのはどうあるべきかという全体像が、きちっと明確に伝わってこない。その骨組みの中で現在満たされているもの、あるいはもう少し強化をしなければいけないもの、あるいは先ほど他都市を見学したりということで補完するもの、これらであるべき姿はどういうものなのかを明確にして、その中で神戸市というのは海、山、温泉、いろいろな資源がいっぱいあります。食もいっぱいあります。これらの資源を組み合わせ、あるべき未来の神戸市に対しての複合効果を生むような、神戸市独自の方程式をつくる必要があるんですよ。いっぱい資源はあります。ただ、後は達成するためのお金。それから、それにかかる期間とかいろいろありますよね。早く手がけられるものは手がけて進む。時間はかかるけど、必ず期限を決めてやる。この効果測定をきちっとしながらやる。複合効果、シナジー効果をどれだけ出すかということが、やっぱり神戸市に求められていると思います。やはり最初の提言ということで、これはこれで失礼だけどよしとして。次、もう少しその辺を数値化してわかりやすく、何が大事なのかがはっきりわかるようにして御説明いただいたらわかると思いますが。この数値化についてお答えいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○司会（平木理事）

最後の御質問に、委員長一言お答えいただけたらと思います。

○吉田委員長

私ばかりが発言して、本当に恐縮です。確かに数値目標を決めるのは、私たちもよく当局と議論している中で事業の具体化という観点からすれば数値目標、それから先ほどもございましたように年限ですね、いつまでに何をどうするかを決めていくことが非常に大事だと思ってございます。

ただ、一方でお話がありましたように、未来都市とは何なのか、魅力とは何なのかという、ちょっと口幅ったい言い方になりますけども、非常に哲学的な部分が本当は一番大事なんだろうと私たちは思っております。この部分について、現状の課題を数値化することはできますが、将来の姿はどういう姿がいいのかと。

少しだけ先ほど触れましたけれども、行政課題として都市計画の中で言いますと、例えば道路をつくりますと。道路をつくるんだけれども、それは車のための道路なのか、歩行者のための道路なのかを、実は余り考えずに道路をつくっているのではないかと思っております。車道をつくってから歩道をつくるというのが多いんですけれども、本来は歩道をつくってから幅員が余ってれば車道でいいのではないかと。現実には、そういうふうな法

制度はなってるわけではないので、道路法ではそんなことになっておりませんが、そういうことも変えてみる。

先ほど音空間、音環境の話もしましたが、音環境というのは実は都市計画の中でないわけじゃないんですけども、ほとんど尊重されておられません。そういったことが、1つの未来都市というものを全体的に明らかにするのはなかなか難しいんですけども、その1つの角度づけと言いますか、1つの側面として、音環境であったり道路空間の活用であったり、あるいは考え方の見直しであったり。

遊園地って先ほど言いましたけど、公園は見た目が美しいだけでいいのかということがございまして、そこをいかに活用するのかを、実は余り考えてこなかったというのがあります。自由使用だと言いながら、ボール遊びもなかなかできませんので。じゃあ、そしてここでパーティーやっていると。後で御提言あるかもわかりませんが、パーティーやっているとすることは、なかなかおもしろそうだけれども現実、具体的にやれるかと言ったら、これから検討してみないとわからない。こういうことは、これまで考えたことが実はなかったわけです。

ですから、そういったことをまさに自由に——未来都市と言うとちょっと無責任に聞こえるかも知れませんが、いろんなことにチャレンジしてみよう。考え方として、新しい考え方を皆さんにも御報告を申し上げて、市民報告会の意味はここにあるんですけども、皆さんの御意見もぜひ伺いたいということで。

私どもも、未来都市の全貌を描くのはちょっとなかなか——あえて申し上げますと、党派性の違う議員が集まって、先ほどもお聞きになってわかるように、いろいろと意見の違いがあります。そういったことを踏まえて、それを乗り越えて神戸の魅力、あるいは神戸の未来都市の姿を何とか考えようということでやってまいりました。まだまだ緒についたばかりでございますので、ぜひ皆さんの御意見もいただきながら、皆さんと一緒に神戸の未来都市の姿を幾つか考えたらいいのではないかと。1つではなくて、こんな未来都市の姿ということを幾つかの提言という形でまとめられたらいいなというのが、この1年間やってまいりました私の感想でございます。

そういうことで引き続き、選挙も終わりましたので、また精進して皆さんの御意見を踏まえてつくっていききたいという思いでございます。

○司会（平木理事）

ただいまの質問をもちまして、時間も過ぎておりますので、質疑応答の時間を終わらせ

ていただきたいと思ひます。

手を挙げては聞きにくいけれども何か意見を言いたいなという方には、皆様にアンケートもお配りしておりますし、あるいは御質問がございましたら、資料の最後に市会事務局政策調査課、お問い合わせ先も入れておりますので、メールでの御質問なども今後も受け付けてまいりたいと思ひます。6月に新しい委員会のメンバーに変わりますけれども、ここでまたお返事をさせていただくという形で引き続いて検討していきたいと思ひますので、よろしければお届けください。

これをもちまして、1部は終了とさせていただきます。

引き続きまして、休みはなく第2部に入らせていただきたいと思ひます。ここからは、当委員会での参考人としてお招きし御意見などを頂戴いたしました4人の参考人の方々から、「神戸の魅力と未来」をテーマに、それぞれの思いなどをお語りいただきたいと思ひます。

それでは、まず御紹介をさせていただきます。神戸芸術工科大学学長の齊木崇人様。神戸フィルムオフィス代表の田中まこ様。神戸電子専門学校校長の福岡壯治様。実業家で神戸ファッションコンテスト審査委員長の齋藤統様。

これから後は、コーディネーターは齊木様にお願いしたいと思ひます。それでは齊木様、よろしくお願ひいたします。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

御紹介いただきました齊木でございます。よろしくお願ひします。

きょうの日を私は待ちわびておりました。と申しますのは、今まで創造都市とかデザイン都市とかファッション都市宣言とか、いろいろな形で神戸市は新しい提言を次々私たちに提供してくれました。私たちはそれを1つの目標にして次の時代を目指して展開してきたわけですが、時代が私は大きく変わったと今思っております。と申しますのは、ここで、今、委員長から説明がありましたが、未来都市を論じるのではなく未来都市をどのように創造するかという、未来都市創造が私たちに与えられたテーマではないかなと強く思ったわけですが。

というのは、未来都市がどこかにあるのではなくて、自分たちでつくらなければいけない、つくる覚悟はあるのか、提案したものを実行する責任と責務が私たちにあるのか、これは、神戸市民に問いかけられた大きな課題だと私は認識しました。きょうはここに4人のメンバー座っておりますけど、きょう全員が顔合わせたのは初めてです。それぞれがど

のような参考人で意見を述べたかということも、資料を通してしか知りません。

ということで、後半の1時間はぜひ私たちにも議論のチャンスを与えていただき、先ほどいろいろ質問をいただいた方々、7の方が質問をされましたが、そのことにもできるだけ答えて、創造都市、それを未来都市創造に変えていきたいと思っております。

神戸は、お話がありましたように海があること、瀬戸内海にあること、そして、この瀬戸内海が私たちに新しいチャレンジを常に与えてきてくれた歴史があります。そして、今も潮は6時間置きに満ち引きをしております。この変わらない、変化しないエコロジカルなその場所が持っている力を、私たちは本当に使いこなし得てるのか。

さらには神戸を、視点を変えて空から見ることによって、かつて神戸を開港したときに紹介された1枚の絵が、六甲山がはげ山であったことを私たちに教えてくれます。ただ、私たちは六甲山を百数十年かけて見事に緑にしましたが、その六甲山の姿を私たちはどれだけ生かしてるのか。

さらに、神戸には水系があります。尾根線があります。これを動脈と静脈に例えるならば、神戸市のマスタープランは、私はどこの都市にもない世界に類のないすばらしい立地条件、環境条件を持っていると思います。それを考えると、明石や稲美や三木や宝塚や三田、さらには芦屋、西宮も含めて、神戸に期待するところは大きだと思います。

神戸の中だけで物を考えるのではなくて、やはり周辺とどのように連携して、神戸が世の中でどう役割を担うのか、そのようなことを考える未来都市創造の時が来たと思っております。

ただし、今、立てられているマスタープラン等を、私がつくりましたこの動脈である動線、尾根線等で読み取ろうとしましたら、立地環境の多様性に気づきます。これは私が空から写真を撮ったものですが、神戸は震災も経験しましたが、見事に復興、復活を目指して今も進んでおります。多様な風景を私たちはただ地上から見るだけではなくて、きょうのこのような集まりを通して、また、視点を変えて鳥の目で、時には歩き続けたアリの目で見通すときが来たのではないのでしょうか。

私はこのような場を使って、神戸の環境の多様性、さらには私たちが忘れてはならないエコロジカルな自然生態、そのようなことももう一度捉え直したいと思えますし、やはり未来都市を考えるときには、誰も見ていないから未来都市でありまして、さらには、考えたことがなくて、まだ気づいたことがないことに私たちがチャレンジすることこそ未来都市だと思っております。

ニュータウンも、今、衰退が始まりつつありますし、そのようなことから考えると、神戸は開港して以来さまざまな膨張をしてきました。数万人から始まって戦前で100万人を超え、そして今またさまざまな災害に対応しながら生きております。過去のそのような態様に、エネルギーを出してきた私たちの英知はどれだけ生かされているのでしょうか。私は、次々とあらわれるさまざまな課題は、わかりやすいコミュニティーこそ解決の母体だと思っております。今からあらわれる新しいものにチャレンジするときには、市民の力がベースだと思います。どこからか経済的な成長を求めてお金を獲得してという時代は終わったと思います。私たちの英知をどのように酌んで、この基盤となる神戸をうまく生かしながら進めていくことができればいいのではないかなと思っております。

あとのメンバーがこれから話を展開しますので、その中で、また議論を展開していきたいと思えます。視点を変えたい、未来都市創造に私たちは着手したい、そのように思えます。

以上です。

それでは、ここからは、それぞれの委員がきょうの発言を含めて、刺激を受けたことも含めてお話をさせていただきます。

田中まこさんからお願いいたします。

○パネリスト（田中まこ氏）

神戸フィルムオフィス代表の田中まこと申します。

私はふだん、映画やテレビドラマ、テレビコマーシャルといった映像作品を神戸に誘致して、撮影を支援する業務を行っています。よく聞かれますが、私は市の職員ではありません。民間人です。そして私は議員でもありませんので、政治家でもありません。神戸が大好きで神戸を元気にしたいという思いで、それをただ映像という1つのツールを活用して何ができるのかを求めて追求してきました。この委員会に関しましては、実は神戸の魅力、神戸のブランドを考えたいということでお話をさせていただいたので、ただ、何時間のものをなかなか1分、2分では説明できませんが、そのときに用いたのがこういったスライドでした。

ある調査データによりますと、よく住みたいまちナンバー1とか、旅行に行きたいまちナンバー1とか、インターネットで調べるといっぱい出てきますので、ぜひ皆さん見てください。何人、いつ、どこで聞いたかによって大分、数字は変わりますが、共通している部分もたくさんあります。例えばこういった調査で、神戸が訪れたいまちナンバー1には

なってないですし、住みたいまちのナンバー1にもなりません。じゃあ、関西で住みたいまちナンバー1になってるかという、残念ながら関西でさえ住みたいまちナンバー1にはなっていない。じゃあ、どこがナンバー1になっているのかという、ここ数年断トツで西宮です。ですが、その阪神間といったイメージで考えたときには、神戸も入れて、やはり住みたい地域というイメージを持っている方がとても多いというのが、不動産屋のデータとかで数字をまとめるとそういうのが出てくるんですね。

今回のこのブランドに関してはそれだけではなくて、例えば観光意欲度ですとか、特産品ですとか、いろんなものを考慮して出したベストテンがこの数字です。北海道や沖縄はよく入ってますし、あと神戸と似たところと言うと、大抵私たちは横浜と競って負けているパターンが多いのかなという気がします。

それについていろいろと、じゃあ神戸の場合どうしたらいいのかをお話ししましたが、その中で私が最後に気になる課題といったものを挙げたんですが、特に言いたかったのが、神戸はおしゃれだとか洗練されている、ロマンチック、デザートがおいしい、いつも褒めていただきますけれども、じゃあ神戸市民の大半が本当にほかのまちに比べておしゃれでいつもグルメなものを食べているのかという、決してそうではない気がしています。もちろんそういう方もいらっしゃいますけれども。

住みたいまちの話、今しましたので飛ばします。

スイーツ、ファッションに関しても、神戸、本当にいいですねっておっしゃいますが、じゃあ数的に東京や大阪に比べたときに、例えば人口や面積で比べたとしても、やはり決して勝っているわけではない。ただ、ここ数年、神戸市が観光キャンペーンでやっているおとな旅・神戸のように、ちょっとお金はかかるかもしれないけれども、神戸に来ないと体験できない、見られないような旅いかがですかと提案しましたら、ほとんどのプログラムが即完売するという、とてもそういったものに関心を持って神戸を訪れたいと思っている人が多いという結果も出てきています。

あと、よく神戸のおいしいもの、ブランドって聞かれたときに言うと、そんなの東京のデパ地下で買えると言われます。神戸の、例えばお洋服屋さんであっても食べ物屋さんであっても、売れるとすぐ全国区になってしまって、どこでも買えてしまう。例えば日本酒が灘のお酒というのは、日本のお酒の半分ぐらいつくっているにもかかわらず、どこのスーパーでも買えてしまうので、みんなそれだったら東北とか北陸の地酒飲みにいきたい、それだったら何万円かけて旅行したいのに、灘のお酒はいつでもスーパーで買えるからわ

ざわざ神戸には行かないという心理的な要因も大きいんじゃないかなと。

じゃあ、そういったものを起こさせる、行きたいと思わせるものを、何か神戸が今後つくっていかなくちゃいけない。福岡、札幌、神戸というのは人口がほとんど変わらない。でも、すすきのって聞いただけでワクワクするのは何でだろうな。中洲って聞いたら男性だけじゃないですよ、女性も何か食べて飲んで人と語ってみたいな、すごいワクワク感。それを神戸に対して、神戸の人は感じているか、神戸の外の方は感じているのだろうか。余り感じていないとしたら、それはなぜなんだろうかというところまで、なかなか議会のような場で議員さんや役所の方々、徹底して議論することは難しいですよという話をしました。時間が過ぎてしまったのでここにしておきますけれども。

ふだん私がやってる映像の支援で、よく言うことです。美しい絵画の絵と描いて、絵になるまち神戸ではなくて、画像のほうの画です。これは映像のほう映画の画をとっていませんけども、それはきれいなだけではなくて、人が住んで、人が動いて憎しみ合ったり、お互いにインスピレーションをたくさん与えたりしていくと、それは絵はがきになるようなまちではなくて、そこに人のドラマがあって、そこに人が生きているんだと、そういうまちになってほしいなといつも思っているの、そんなお話をさせていただきました。

以上です。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございます。

まさに新しい刺激を、私たちみずからが生み出していかなければいけない。そのときが来たと私も思いますが、新しい刺激をアイデア、福岡さん、ひとつお願いします。

○パネリスト（福岡壯治氏）

神戸電子専門学校で校長をしております福岡でございます。

きょうこの委員会に私が呼ばれたのは、西日本全域から広く学生を受け入れている高等教育機関を運営しているということ。そして、神戸市が掲げますデザイン都市の創造会議の委員をさせていただいているということ。そしてあと、これはもう半ば趣味ですけども、音楽のまち神戸を創る会のお世話をさせていただいている。そしてあと、50年、筋金入りの神戸市民であるということ。この4つの観点からだと思っております。

参考人として特別委員会でお話ししたうち、提言書のほうですね、いろんなアイデアとか思いを今回採用していただきました。ここを委員長初め先生方のワークに対して、すごく感謝いたします。

きょうは、そこで提言した具体的な具体策の効用についてのお話ではなくて、これらを市民として進めたいと思ったその背景や根っこについてお話しをしたいと思います。都市のデザインというのは、これは絵を描いて終わりということではなくて、それを実装して、そしてやってみて本当に効果があるのかということを確認して、そしてよければ最大化を図ることをしていく。組織、学校もそうですけど、ほぼマネジメントと同じだと思いますね。都市のデザイン、イコール、マネジメント。

そのマネジメントをする際に私がいつも使っているのが、ピーター・ドラッカーさんですね。マネジメントという言葉をつくった方の5つの質問というフレームですけども、その中でも特に、顧客が認める価値は何か。先ほどから市民の皆様から出ている、成果指標は何かというところですね。それを決める前に最も重要なことは、我々の顧客は誰なのか。顧客というのがなじむのかどうかであるんですけど、顧客というのはニーズをウオッチすべき対象だと思っております。

私はこのように考えます。神戸市民を核として、旅行者、そして移住予備層。企業はどこに行ったんだということになるんですけど、それも含めてこの3つに集約してもいいのではないかなと思っています。

若者が集うまちということで言われたんですけども、ここに至るまでにいろいろあるんですけど、時間がないので割愛しますと、若者を特別視する必要はないと思うんですね。若者がワクワクする、我々もワクワクすると。共通項は見出すことはできるのではないかなと思っています。私が呼ばれたのは去年の秋ですけども、それから世の中どんどん変わってきています。特にAIとかロボットとかITを核とした新しい技術を活用して、世の中の仕組みは変わる。働き方が変わる。長田とか新長田の商店街の苦戦というのは、行政のせいでは決してないと思うんですね。誰も物の買い方、働き方の前に、物を買うというスタイルが変わることを予測できなかったことにあると思います。それぐらい、今、変わっているんですけども。

ことしの1月にNHKの「ネクストワールド」という番組で、AIやロボットの技術紹介が衛星ではなくて地上波であったんですね。AP通信のスポーツの記事は、AI、ロボット、コンピューターが書いて、最後に人がサインをしているという時代になってきている。先進的な方がおっしゃっているように、今の仕事の6割が2030年、2040年にはシフトしているかもしれないという今、真っただ中にいると思います。

そういう中で、もう齊木先生が言われたように、これからの未来都市というのは本当に

どうなるかはわからない。そういう中でどう希望を持つセットしていくのか、顧客セットしていくかと、市場をセットしていくかということですけども、1つ注目したいのはビジネスモデルが変わってる。大企業だけでなく、ITとか技術を使えばAirbnbのように、全世界のホテルチェーンより大きなホテルサービスが数人でできてしまうと。けどもオフィス要らない。けども全世界に数百人、数千人、雇用を生むということが、そのようなモデルがどんどんできていってるわけですね。そういう人たちは全国どこにでも、全世界どこにでも住むことができるわけですね。

ですので、これからの産業誘致、これも既存の産業誘致に加えて、どこにでも住めるような人たちが住みたくなるような心地よいまちをつくって模索していく。ですので、これまで別々であった産業振興施策と市民の心地よさを高めていくという別々のものが、これ同心軸状で求めていくことができる。というか、逆に求めていかないといけない時代が来ているんじゃないかなと思っております。

きょう、いろいろ言いたいことがあるんですけども、時間が来ましたので。この後の全体の中で、委員長のほうからも御指名いただきました市民の心地よさを高めるための音環境についても、また話す機会があればと願っております。

以上です。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございます。

今、福岡さんがおっしゃった、時代がどんどん変わっている。そして、日本ももちろん大きく変わりつつあるわけですが、世界も実は変わってるわけですね。それに対して、私たちがしっかりしたアンテナを張っているのか、物を見ようとしているのか。まず、その姿勢を厳しく齋藤さんから刺激をいただきました。齋藤さんの神戸ファッション、世界のファッション、マネジメント、比較は刺激的でしたが、齋藤さんから神戸の未来都市創造の方向、お考えのことを少しお願いします。

○パネリスト（齋藤統氏）

実はきのうパリから着きまして、日本に。ちょっと時差ボケで頭がぼんやりしてます。変なこと言ったらごめんなさい。何しろきょうのこの報告会に、やはりどうしても来たかった。といいますのは、昨年12月にたまたま神戸ファッションコンテストの審査委員長をもう7年ほどやらせていただいているんですが、その審査委員長で来たときに、こちらの委員会でいろいろ発言をさせていただいて、きょう向こうにいらっしゃる委員の方の前でい

ろいろと私の言いたいことを申し上げたんですけども。逆に言うと、私も自信を持って言っていますが、神戸市民ではございません。日本国民ですが、日本国のパスポートを持っていますが、日本に住んでおりません。既にフランスに、ことしで43年目に入りまして、私が大学卒業するや否やフランスに行ってしまったものですから、私の年齢も推しはかれると思います。

そういう中で、ファッションコンテストの審査委員長を2007年からやらせていただく中で、神戸との関係というか、神戸にいろいろ、すごく俗っぽい言い方をすればお友達もふえましたし、やはり神戸というまちが不思議なもので、皆さんと関係を持っていくととてもそのまちが好きになってくるのもあると思うんです。私は過去において、皆さん、年齢いかれている方は御存じだと思いますけども、東京駅から、私は東京出身ですけども、特急つばめという電車乗りまして、父と一緒に大阪まで来て、その後、神戸にも来たことがあるんです。ですから、まだ新幹線ができる前ですけども、そのときに、それこそ六甲山とかそういうところに父に連れていってもらって、要はボンボンだったんですけど。

そういうことの実験もありまして、神戸でたまたまこちらの吉田委員長初め、皆さんと知り合っていく中で、私がいろいろと神戸ってこういうところが魅力があるのに——逆に言うと、3人の、齊木先生も含めて皆さんは、神戸市民であるがゆえに見えないところがある。私は逆に表から全然違うところから見ていて、日本に来るといろんな、東京ももちろんですけど、名古屋ですとか福岡ですとか大阪ですとか、今回の出張中も福岡にも行きます。鹿児島にも行きます。名古屋にも行きます。いろんなところを見てる中で、やはり神戸の魅力は、私は非常に強く思っています。

その1つの魅力というのは、先ほどの皆さんのお話の中にもありました、ごめんなさい、私パワーポイントを持ってないので、皆さん今まであった画像から何となく想像していただきたいんですが、この海と山というのはやはり私はキーだと思っています。私も何度もお話ししたことが、前回の委員会でもお話ししたんですが、フランスの南仏というところ、ニースとかカンヌとか非常に有名な、皆さんもお聞きになったことがあると思いますが、世界的なリゾート地です。そういうまちというのも、必ず海があってすぐ後ろに山がある。極端に言うと、スキーでヤッホーって滑ってきて、そのまま水着になって海に飛び込んでいいんだよというぐらいのものを持っている。それぐらい魅力があるのは、はっきり言って神戸。あと、全然違いますけど熱海なんですね、不思議と。

逆に海外の方から神戸シティというところ、皆さんは御存じないと思います。意外と知

られています。これは別に震災があったとか、そういうことではなしに、やはり神戸というまちは海外の方、もちろんフランスも込みにして、昔それだけのコミュニティーがあったわけですね。向こうの山に行けば旧居留地というのがあるように、やはり海外の方は神戸を知ってます、意外と。関西ではもちろん京都、それから神戸。下手すると大阪よりも神戸と京都のほうが、認知度が高いかもしれません。

そういう中で、今、神戸市がやっていこうとなさってる、いろいろと皆さんの意見がおっしゃるように、未来神戸というのはじゃあ何なのか。見えないことがいっぱいあると思います。ただ、例えばパリ、それからフランスの2番目の都市と言われてるリヨン。こういうまちが今、新しい都市計画でどんどんまちを変えようとしています。それを私が逆に、こういうお話を昨年、吉田委員長から伺っていろいろと興味を持ち始めまして、パリとかリヨンとか視察にも行っているんですが。

例えばパリ、今、車をできるだけ減らしていこうと。御存じのように、結構パリは今、非常にポリューションが多いまちになってますので、例えば減らしていこうと言いまして、セヌ川の流に沿って右側を右岸、左側を左岸と言うんですけど、左岸に昔は高速道路があったんです。ずっとセヌ川に沿った高速道路があったんですが、それを今は全部公園化しました。リヨンも、例えばソーヌ川とかローヌ川も全部、約30キロに及ぶ遊歩道をつくってます。

というふうに、海外で私が見ているいろいろ感じることで、それからこういうふうにはできること、細かいこと言い出したらいっぱいあるんですけど、時間がちょっとオーバーし始めてますので。私はその逆に、海外、フランスというまち、またはイタリア、ヨーロッパから見たときに、神戸ってまちがどういう魅力あるまちとして、今後、発展できるのかを、いろいろとまた御意見を言わせてもらえればと思っております。ちょっと時間オーバーしましたが、一応私の意見として申し上げておきます。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございました。

ここまではメンバーが一言ずつということで始めたわけですが、先ほどお話をしていたことでこれを加えていきたい、これに関してはしっかりお話をしておきたいということがありましたら順次お願いしたいと思うんですが。

1つは、吉田委員長から提言が18項目出されました。この18項目は、先ほどの初めに質問をされた垂水の奥地さんからですかね、過去の提言で新たなものが見えないという話も

ありましたが、私たちもこの提言内容を見たときに、これをどのように今の時代で解釈するか。そして時代を前に進めるには、どのようなリスクを負って前へ進めなければいけないか。そのようなことを強く感じました。

ということで、ここからは提言された内容と、私たちがその提言を刺激した内容をクロスさせて、新たな発想を少し生み出してみたいなと思います。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。田中さんから行ってみましましょうか。

○パネリスト（田中まこ氏）

つけ足したいことは、たくさんもちろんあったんですけども、私は先ほど質問でも多く出ていた、やっぱり全体像がきちんと見えてこないといった、一体、神戸市は何をしようとしているのか、どこに行こうとしているのかという部分はとてもよくわかると思いますが、それはつくろうとしている側も、それから市民側も、どちらもお互いのことを知ろうと、やっぱり近づいていかないとなかなか——議員の先生たちが本当に頑張っているいろいろと検討してくださっているのは確かですので、それを1時間のビデオでってお話がありましたけど、それを1時間に、何カ月もかかった話をまとめるなんていうのは、ほとんど不可能かなと私は思います。

未来の都市を創造するというのはそのとおりで、別に議員がつくるわけでもないですし、市長や市の職員がつくるわけでもない。じゃあ、誰がつくるのかといたら、みんなでつくるわけですから。全て求めているものを入れるプランというのは、絶対あり得ないじゃないですか。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

そうですね。

○パネリスト（田中まこ氏）

それだけは絶対はないと。であれば、じゃあ何を選択して行って、方向性だけでもどうしていくのか。神戸にとってその優先順位はどこにあるのかということをもまずは選んで、市民もそう思っているのかという確認がとれれば、じゃあ具体的にその優先順位の目的を目指していくには、まずここから手をつけようとか。じゃあそのために三宮の駅周辺を整備するのが優先順位、上なのか、それとも例えば福祉だとか教育だとか、そっちを先にやって三宮後回しのほうがいいのかも。いろんな意見がまた市民からも出てくると思うので、そういったものを私たちも、それぞれ今は1人ずつ専門分野の経験から発言しましたけれども、もうちょっとそういうところが決まってこない、なかなかこういう検

討委員会とか報告会というものも難しいのかなとも思っているのですが、いかがでしょう。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

そのことは、私も強く感じますけど。先ほど司会を、議員の平木さんがされました。そのときに、今回のここでの議論は、これからの神戸を考える一部でしかないという話をされました。私も全くそうだと思うんですね。実は、一部を扱いながら次の広がり在这里で議論している、そこに足を踏み出してるわけですけど。ただ、一部も扱わないと全体も見えない。そして、その一部を扱うときには勇気が要ります。実験をしなければいけない。批判も絶対出てくる。それに対して、一歩前に足を出したときの自分の責任だとか役割も、未来に想定した計画の中に入れているかどうか。そのことが、常に私たちに問われていると思うんですね。

ということで、今から新しい実験を試みようとしてされている福岡さん。あなたに回しましょう。

○パネリスト（福岡壯治氏）

その実験に行く前に、1つだけ追加したい。先ほど誰を顧客とするのか、誰をハッピーにさせるのか。極力やっぱり効率よくしたいということと、どういう成果指標にするのかというところで、きょう複数の発信の中で心地よさって、心地よってことが出ているんですね。

僕もさっき言いましたけど、産業誘致のためにも、そして市民が満足するためにも、旅行者が満足するためにも、そして行く行くは移住してくれる。神戸150万都市で博多、僕、名字が福岡なんで、福岡をずっとウオッチしているんですけども、同じ150万都市で、2年後にどうも抜かれるんですかね。向こうは微増で、ここは微減。国交省の国土の長期展望のレポートでは、東名阪、沖縄だけが伸びて、ほかは人口的に沈むということだったんですけども、博多はそれに反している。やっぱり働く人、住む人の心地よさを最大化することに、僕は何か福岡は向いてるなという気がするんですね。あれもこれもやってるんじゃないくて、若い人たちが起業することにフォーカスをして、さっき齊木さんが言われた、何か選んで実装していくというところ、そこをやられています。

神戸もそういう選ぶことが必要で、できればなりわいを最大化していくことと生活を楽しむことの、何か同心円状のものからやっていくべき必要があるのではないかなと。そういう意味で、21世紀の最大の産業は、僕は観光だと思ってますので。自動車産業を超えます、まだまだ伸びてますし、どんどん体験することの価値がふえてきてて、移動する技

術というのはどんどん発展していってますので、そういう意味で市民生活を見ていただくと、そういうことが、新しい21世紀の観光になるんじゃないかなと思っております。

ニューヨークの、例えばマディソン・スクエア・ガーデンとか、ニューヨークの市民球場だと思えますし、アポロ・シアターというのは余りお金のない人たちの、ニューヨーク市民の市民劇場だと思うんですよね。そこでのライフスタイルをみんな世界中から見に来るとのことなので、それなんか実践されてると思うんですよね。神戸は、僕、東京以外で1番それができる可能性のあるまちじゃないかなと感じています。

さっき時間がなかったので映像出せなかったんですけども、東遊園地に、今、行政も議会も注目してくれていますので、そこにつけ入ってじゃないですけども、東遊園地を市民でどんどん活用することを実験させていただこうと思っています。5月23日の土曜日に神戸ホワイトディナーという名称で、白い衣装を着て、机、椅子、食べ物、飲み物を東遊園地に持ち寄って、300人ほどで、みんなで宴会をするんですけども。それもその1つで、何のためにやるかと言うと、いい意味で市民がまちを所有する感覚を味わってみたいということで、市のほうに無理を言っているいろいろとお手伝いをさせていただいて、今、進めています。これもウエブで情報が出てますので、御興味のある方はぜひ参加いただきたいんですけど。

これに限らず、ことしいろんな人が東遊園地をまずターゲットにして、東遊園地でキャンプやりたいとかファーマーズマーケットやりたいとか、いろんなことが実験されます。あしたもおもしろいリリースがあると思いますので、ぜひあさっての新聞をお楽しみいただきたいと思うんですけども。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございます。福岡さんが今しゃべられた実験が、まさに神戸の新しい1ページを開いていくと私も期待しています。

齋藤さん、先ほど福岡さんが言われた選ばれる都市、選ばれるところということは、消えていくところもあるわけですね。

○パネリスト（齋藤統氏）

そうですね。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

それから、選ばれる暮らしもあれば消えていく暮らしもあります。さらには、選ばれる住まいもあれば消える住まいもあります。その姿をまさに、今回、刺激していただきまし

たけど、いかがでしょうか。

○パネリスト（齋藤統氏）

選ばれるのですか、さっきのやつですね。

1つ、私の場合はやはり、皆さんに先ほど自信を持って申し上げた市民ではないので、なかなか神戸を全部私は知り尽くしてないんです。神戸に1週間ぐらい来ていろいろ見て歩くとよく齊木先生に言われるんですが、なかなかそれをやる余裕がなくて、日本に来るといろいろと飛び回ってることが多いんですけども。

海外から見た場合ですから、必ずしも当てはまらないと思うんですけど、例えば九州、さっきたまたま福岡さんから福岡のお話が、福岡だから福岡さんってわけじゃないんですけど、今、鹿児島だけとか、福岡だけとか、九州全体とかということで、ヨーロッパに対していろんな形でキャンペーンを、かなり強烈に動き出しています。それに関して、そのやり方がいいのかどうかは別です。やり方に関しては、私はちょっと疑問があるんですが、今ここでそれを発言することは重要ではないと思うんですけど。

ただ、そういう海外に向けて非常に九州、福岡、鹿児島、物すごい勢いで、今——例えば、ことしの6月に鹿児島展が多分パリで行われるはずですし、それでたまたま今回、鹿児島のほうに6月の頭に講演に行くことになっているんですが。それも結局パリで鹿児島が、もちろんメインは必ずしも焼酎ではないんですが、今、私は焼酎のコミュニティーの方から呼ばれていくんですけど、そういう意味で、やっぱり海外に発信していくということ。海外に発信するのに、やっぱり日本の国の中で見たとき幾つかのまちがあると思うんですけど、その中に神戸も私は入っていると思います。

先ほども申し上げましたように、神戸の知名度というのは決して海外で低くありません。京都、神戸というのは、多分、関西地区で非常に、あえて京都と神戸を比べてしまうと、やはり京都というのは古い、いろいろと、まあパリと同じですよ。京都って、まち自身が1つの展示会場というか美術館みたいなところがありますから。そういう意味で、まだ神戸というのは、パリとか京都のようにまちとして、神戸におりたら神戸だということはないと思います。ただ、先ほど申し上げたように、パリが、今、変わろうとしてる中は、パリはやっぱり世界の美術館じゃないんだと。もっとパリというのは、やはりフランスの首都なんだということを全面に出そうということが、非常に今、パリでは問われています。

例えばファッション、私の専門はずっとファッションでおりますけども、ファッションもやはり、パリが本当に花の都として成り立つにはどうしたらいいのかということが、非

常に今いろんな形で問われています。

というふうにして、今いろんな国、残念ながら私アメリカは余りよく存じ上げてないんですが、ロンドンもそうですし、それからパリもそうですし、ミラノだとかそういうところがいろんな形で、どうやって世界に対して発信していけるのか。もっと世界を取り込んでいけるのかということに対して力を入れ始めています。そういう中で、日本で2020年に東京でオリンピックあるからどうのこうのってことで、東京で幾つかそういう会議に一応出席して意見を述べたこともあるんですが、それとは違った形で神戸という、今これから皆さんがつくっていかうとなさっている未来都市という中でのそういう魅力の中に、やはり海外に対して発信していけるものと、逆に皆さんが取り込んでいけるもの、その両方のものをどういうふうにつくっていけるのかは非常に今後重要なこと。それによって、やはり神戸は福岡以上にどんどん伸びて行って、人口がふえるだけではなくて、やはり神戸というまちがどれだけ世界に対して物を発信していけるかという。その1つが、私はファッションにあるかなと思っているんですけども。

その辺は、具体的なお話はもっと進んでいく中で私も意見を言わせていただこうと思っていますけども、そういうふうにして、今後の発展していく未来都市の中に、私は海外を見たときの神戸というものをかなり見据えております。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございます。田中さん、今、齋藤さんのお話を受けて、神戸でどのように発信をしていくか。その発信の方法であったり、それからまなざしであったり、その辺で御意見をいただきたいと思います。

○パネリスト（田中まこ氏）

神戸の方たちが、みずから発信する気持ちを持ってほしいと、もっと。まず1つ思っています。

私も実は神戸人ではないので、関西人にはありますが。神戸の方というのは、よく言うと、シャイって皆さんおっしゃるんですけども。それはよく言えばシャイなのであって、物すごく保守的であったりだとか、自分たちの中では結構、本当に神戸いいよねとか、絶対ここにずっと住みたいよねという気持ちを持っているんですけども、外に対して具体的に神戸の何がいいのか、だから海外のあなたの国であれば、神戸のここを見に来ると、あるいは体験すれば絶対に楽しんでもらえると思いますよということと言える方がもっとふえていくとすてきな。今はSNSもこれだけ発達していて、もちろんパソコン、イン

ターネット、問題も多々ありますけれども、やはり情報発信として一人一人の口コミをもとに、海外の方たちにアンケートをとって何がきっかけで日本に来ましたかって聞くと、圧倒的にもう今インターネットですね。じゃあそのインターネットはどこかと言えば、例えば英語で過去に行った誰かが書いてあるサイトであったり、あるいは住んでる人で英語ができる人が、こんなものがあるよというのを発信したことがたまたま検索したきっかけで。だから、例えばロボットレストラン——東京のように、日本人はなかなか行かないけど外国人は殺到してる人気スポットが東京にあるじゃないですか。あれはもう本当に、外国人同士の口コミでおもしろい、日本ならではのカルチャーだということで広まっていった。そんなものがもっと神戸にあればいいのに、それを発信できればいいのに。

というのは、まず来てもらえば神戸のよさ絶対伝わると思うんですよ。私、年間に100本以上の映像作品の方たちを案内しますけれども、神戸来るとみんな、もっとゆっくりしたかった、いつか住んでみたいといったこと皆さんおっしゃる。つまり、滞在期間が伸びれば伸びるほど神戸のよさがわかってくるけれども、大阪に来たついで、京都に来たついでに1時間神戸に来ただけでは、神戸のよさが伝わらない。海もある、山もある、和もある、洋もあると言うけれど、それ全部を1時間、2時間では見られないし。じゃあ洋は横浜でいいですよとか、和は別に京都でいいじゃないですかと言われてしまうと、結局、全部中途半端で、全部のバランスをじっくりと、よさを知ろうと思えば長期滞在しないとこのまちのよさがわからない。いつも同じところでみんな探す。伝える方法を探す。魅力発信する方法探しで一番苦労してるかなと思います。

例えば、すごく正反対のものを一緒に発信していく形での、神戸のおもしろさみたいなものも1つありかなと。洋と和であったり、山と海というのはさっきから出てきていることではありますけれども。例えば神戸ビーフ知らない人って外国にいない。みんな神戸ビーフは聞いたことがある。だけど、いざ来てみたときにいろんなものを食べてもらおうと、例えば昼網というのをとても皆さん喜ぶ。瀬戸内海のお魚、神戸こんなにおいしいんだと、知らなかったと。ビーフとフィッシュどっちも楽しめる、何てすてきなんだみたいなことを言うていただくと、私なんかすごく、それが神戸のよさなんですよって訴えたくなりますので。何か保守的だけでも物すごく漸進的でもありというような、そういうものをセットでどんどんPRしていくとかすれば、全体像がもうちょっと見えてくるんじゃないかなと個人的には思いました。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございます。時間にもうなってしまったんですが、どうしてもって、よろしいですか。

○パネリスト（福岡壯治氏）

音の件だけ。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

はい、1つだけ。

○パネリスト（福岡壯治氏）

先ほど成果指標とかで。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

質問でありましたね。

○パネリスト（福岡壯治氏）

はい。市民の心地よさですね。何なのかということは、とことん議論したいと思うんですね。それを最大化させるためにあらゆるものが、市民も行政も企業も向かっていくことが、やるべきなんだと思ってます。その中で心地よいということで考えるとですね、僕はどういうまちに住みたいかといったら、やっぱり人間ですので五感を満足させる——さっきのグルメというのもそうですし。まちなかというのは大抵、視覚的なデザインというのは結構なお金がかかって皆さん神経注いでおられるんですね。でも私は結構、音環境というのは、五感全部満足させたい欲張りな男ですので——僕はグランフロントって、もう二度と行きたくないんですよ。いいスピーカーがあって、いい音楽が流れるという前に、人の雑踏とか足音の残響がもうワンワンと、本当に気持ち悪いんですね。このホール、結構いい線いってるなと思っているんですけども。そういう心地よいと思うことには、人と人の触れ合いとかあるんですけども、環境で言うと、結構音というのは本当におざなりにされてるんじゃないかなと思っています。

ですので、視覚的の景観だけではなくて、主は音も。でもこれは、ヨーロッパで結構あるんですよ。パリにはすごくノウハウがあります。世界的にもいろんなサンプルとなる場所がありますので、これ学んで、ぜひ。

ディズニールランド、非常に高価なスピーカーが何百本とあるんです、何千本とあるんですね。それが雨ざらしで置いてあります。彼らは視覚的な要素じゃなくて、最後は、人間は音による満足で決めることをよく知っています。ですので、そこに、わからないところにすごく大きな投資をしているんですね。

アップルコンピューターというのは、クリエイターさん皆さん使いますが、映像の方もみんなアップル使うんですね。なぜかという、中のサウンドイン——すごくいいですよ。むちゃくちゃ音がいいです。でもアップルは、我が社の製品は音がいいですよってことは絶対言わないですね。それは最終的に自分たちがそれを選んでもらえるということの秘策だということを知ってるんですね。そういう意味で、音にこだわって成功してるモデルというのは全世界にたくさんありますので。できれば日本、我が国で、神戸が一番最初に、神戸電子専門学校にサウンドクリエイト学科とサウンドテクニク学科あるから言うわけではないんですけども、ほかがやらないことをぜひやっていきたいなと希望いたします。

○コーディネーター（齊木崇人氏）

ありがとうございました。また齋藤さん、田中さんにももっとお話をいただきたいんですが、時間が残念ながら来てしまいました。今、五感の重要性をお話しされましたけど、やはり神戸の将来を考えると、私たちが十分、私らの感性をフルに生かしているかどうか。また、いろいろなテーマが次々出てくるんだけど、そのテーマの間の相互関係をどれだけ私たちはしっかり見通す力を持ってるだろうか。このようなことは、きょうの議論でいろいろ明らかになってきたと思います。もう目の前にやらなければいけないこととか、一歩前へ進めなければいけないテーマは、本当にわんさど見えています。ただし、それをどのように総合化するのか。関係を調整していくのか。関係をそこに生み出したときに、どういう新しいリスクが生まれるのか。そのリスクを解決するための一歩、責任とか、一歩自分の力を持ち得るのか。新たなリスクの関係も、これからのチャレンジだということがよくわかりました。

ただし、それを読む力を私たちが本当に持っているのか。さらには、さまざまな実験をして新しい問題が起きることによってどれだけ気づこうとしているのか。ただし、きょうのこの場を私たちは提供いただきまして、これから新しい議論の場や議論の方法を開発しなければいけないなとつくづく思いました。日常の私たちが発信する力は、確かに齋藤さんが指摘されたように、田中さんから指摘されたように、かなり力を失ってるかもしれません。この携帯と電話のネットワークで、埋没してるかもしれません。ただし、私たちはしっかりした未来を今とらえようとしてるわけで、発信をすることをまず始めたいなと思いますし、その前にみずからを開く力を持たなければいけないなと。そしてそれを誰に開くかという、未来の神戸の市民にしっかり発信することが必要だろうなと思います。

もう時間になりましたので。今回のこのような企画に、初め、三宮の駅周辺を整備することだけって私は問いかけました。そこが1つの起点になり、今から何か生まれようとするんですよという問いかけもしました。私たちはこれをきっかけに、未来都市の創造を始めることができればいいなと思います。ただし、そのためには今回のように自由に提言すること、さらには、実現に向けて発生するであろう新たなリスクや課題をどのように捉えるか、共有できるか、これは大きな課題だと思います。またそれと同時に、ここに集まっていたいただいた方々と私たちは、持続的に自分の責務と言っていいと思うんですが、自分の役割をこうだと言う宣言をしていく、これもきょうのスタートではないかなと思っております。

ということで、舌足らずで時間もうまく使うことができなかつたわけですが。私たち神戸市民は未来都市創造を目指して、まだ見ることができない、まだ築くことができなかつたことを与えられるのではなくて、みずから見つけていきたいなと期待いたします。また、最後にこういう機会を私たち4人に与えていただいたことを深く感謝し、私のコーディネーターとしての役割を終えたいと思います。時間オーバーいたしましたがお返しいたします。あと、質問等があるようですので、よろしく申し上げます。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。

それでは、最後に、吉田委員長より閉会の御挨拶を申し上げます。吉田委員長よろしくお願いたします。

○吉田委員長

齊木先生から質問をとのお話ありがとうございましたけど、時間がもう過ぎております。大変恐縮でございますけれども、委員長として最後の御挨拶ということで。

まずもって、きょう本当に市民の皆さん、また当局の皆さんもたくさんお越しでございますけれども、神戸市会初めての市民報告会にお越しいただきまして、改めて御礼を申し上げます。全く初めてのことでございましたので、市民報告会といってもまだまだ不十分な点が多々あったかと思えます。この特別委員会だけではなくて、神戸市会全体が市民の皆さんにいろんな形で報告をさせていただきながら、市民の皆さんの知恵こそが神戸の未来を開くものだと私たち確信をいたしておりますので、これに懲りずにまた開催してまいりたいと思っておりますので、これに懲りずにまたぜひお越しいただきたいと思えます。

本日は本当にどうもありがとうございました。

○司会（平木理事）

ありがとうございました。これをもちまして、未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会を終了させていただきます。資料の中にアンケート用紙を同封いたしておりますので、御記入の上、お帰りの際に出口に用意しております箱にお入れいただきますようよろしく願いいたします。

本日は御参加いただきまして本当にありがとうございました。